

「明峰の学び」に参加して

川西市社会福祉協議会を通じての依頼で、県立明峰高等学校で「災害と防災・減災について」を開催いたしました。

外部講師による「学ぶ力を育み、勤労・福祉・人権・国際理解等様々な社会問題に関心を持ち、社会の在り方について考え、社会貢献する態度を育成する。」との主旨で、1・2年生40名を対象に毎週1回、金曜日の午後2時10分から3時までの50分間、授業を5回担当させていただきました。



1回目(10月31日)は「防災士について」(江見さん)、「自然災害と人的災害について」(叶野さん)
2回目(11月7日)は「ハザードマップによる危険区域の考察」(輔信さん)
3、4回目(11月14日、21日)は避難所運営ゲーム(HUG)を5人1組、8グループで実践しました。
最終回(11月28日)は、各グループによるHUGのまとめ・発表と「高校生として自らが、避難所でできることは何か。」を話し合いました。

生徒たちは、初めは自然災害に対する関心や危機感も薄く、身近なものとして受け止められないようでした。阪神・淡路大震災時はまだ誕生しておらず、2011年の東日本大震災は地理的に遠いため実感を得にくいからでしょうか。

しかし、HUGの実践では、5人毎のテーブルに1名の防災士がファシリテーターとして助言をした事もあり、真剣に取り組んでいました。また、HUGでは5人のチームワークが大切ですので、最初の自己紹介では、自身の住む地域にある避難所を調べ、発表することも行いました。

最初は静かだった教室も、やがて活発になりました。「両親にはぐれた子供たちだけでやってきた、どうしよう?」「お年寄りが多すぎる。」「妊婦さんはここで赤ちゃん産むの?」「盲導犬は別にしても、多種多様のペ



ットの対応をどうしよう?」等々、あちらこちらからいろいろな声が聞こえてきました。

最後に、HUGを実践した中で出てきた問題点・課題・困った事・感想など、各グループでまとめ、発表を行いました。

避難所で『私たちのできること』では、「リーダーになる。」「子ども達と遊ぶ。」「物資運びの手伝いをする。」「トイレや避難所の掃除をする。」等、心強い意見を聞く事ができました。



今回の「明峰の学び」で、直接高校生と接し、思いや考え方などを聞く貴重な経験をいたしました。一人でも多くの高校生が防災・減災に関心を持って、自助・共助の実践をしてくれることを期待します。

「かわにし音灯り2014」報告

11月2日(日)「かわにし音灯り2014」に、かわにし防災士会のブースを一昨年に引き続き出展いたしました。

ブースでは避難所運営ゲーム(HUG)、家具固定の実践方法、東日本大震災被害状況のビデオや写真展示を行いました。また、防災士2名が10月に「応急手当普及員」の認定を受けましたので、初めての技能披露の場として、人形を使っての心肺蘇生やAEDのデモンストレーションを行いました。

大塩市長にも飛び入りで参加いただき、大いに盛り上がりました。



防災士会活動報告(平成26年9月~12月)

- 9月18日(木) 第14回HUG出前講座 (小規模多機能連絡会)
- 9月20日(土) 防災訓練支援(大和地区防災会)
- 10月11日(土) 防災訓練支援 (多田小学校区自主防災会)
- 10月26日(日) 防災訓練支援 (明峰小学校区自主防災会)
- 10月26日(日) 第15回HUG出前講座 (川西市消防団)
- 10月31日(金) 明峰高校「明峰の学び」講師 (11/7, 11/14, 11/21, 11/28の合計5回)
- 11月2日(日) かわにし音灯り参加 (防災ブースの開設)
- 11月19日(水) 第16回HUG出前講座 (川西市社会福祉協議会ボランティアグループ)



定例会の内容(平成26年9月~12月)

- 9月25日(木) 「風水害と川西市の水防体制等について」
- 10月23日(木) 「川西市防災マップからの検証」 「広島土砂災害 なぜ災害を防げなかったか」 「広島土砂災害 災害救助犬とともに」
- 11月27日(木) 「一庫ダムの見学」 《一庫ダムの概況》総貯水量3,330万m³、堤高75m、堤頂長285m、本体着工/完成年：1977年/1982年

